

平成27年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年8月11日

上場会社名 株式会社ガイアックス 上場取引所 名
 コード番号 3775 URL http://www.gaiax.co.jp
 代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 上田 祐司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役管理本部長 (氏名) 野澤 直人 TEL 03-5759-0376
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第2四半期の連結業績（平成27年1月1日～平成27年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第2四半期	2,252	11.6	17	-	21	-	7	-
26年12月期第2四半期	2,017	7.2	△47	-	△14	-	△21	-

(注) 包括利益 27年12月期第2四半期 8百万円 (-%) 26年12月期第2四半期 △21百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第2四半期	1.56	1.55
26年12月期第2四半期	△4.63	-

(注) 平成26年12月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第2四半期	2,762	1,614	57.8
26年12月期	2,786	1,593	57.0

(参考) 自己資本 27年12月期第2四半期 1,597百万円 26年12月期 1,587百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
27年12月期	-	0.00	-	-	-
27年12月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成27年12月期の連結業績予想（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

ソーシャルサービス事業セグメントは、引き続きSNSの普及が拡大しており、企業におけるソーシャルメディアを活用した様々なサービスの増加が見込まれております。このような状況のもと、既存サービスに加え新サービスの提供も同時に注力することにより前連結会計年度に対して5%程度の売上高増加を見込んでおります。

受託開発事業セグメントは、携帯キャリア向け及び公共関係の大型案件の受注は確定しているものの大幅な増加とはならず、前連結会計年度と同水準の売上高を見込んでおります。

一方、利益水準については、新規事業の構成比率が高まる見込みである中、連結子会社の持分比率の変動や社数の増減の影響に加え、各事業の損益がマーケット環境や市況動向次第で大きく変動することから、連結グループとしての業績の予測が極めて困難であり業績予想の開示は行っておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年12月期2Q	5,147,752株	26年12月期	5,147,752株
② 期末自己株式数	27年12月期2Q	472,908株	26年12月期	477,598株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年12月期2Q	4,672,229株	26年12月期2Q	4,657,319株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表の四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「経営成績に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、国内においては個人消費の回復や企業収益の改善などにより、全体として回復傾向にあるものの、経済全体の先行きについては不透明な状況が続きました。一方、当社グループを取り巻く事業環境は、スマートフォン保有者のSNSサービス利用率が63.4%に達するなど(総務省情報通信白書平成26年版) SNSの普及率が引き続き増加しており、世界的に展開する最大のSNSサービスを提供しているFacebookが、2015年6月の月間アクティブユーザー数が前年比13%アップの14億9,000万人に達した事を発表するなど、今後も市場が堅調に拡大していくことが見込まれます。

また、このようなソーシャルメディアの普及を背景に、ソーシャルメディアをマーケティングやプロモーション、キャンペーン、従業員の採用活動等に活用する動きが加速しており、ソーシャルメディアの企業利用は大きく広がりがつあります。このような状況のもと当社グループは、既存サービスのランニング収益の増加によりさらなる経営基盤及び収益体質の強化を目指すとともに、当社グループが掲げる「人と人をつなげる」というミッションを念頭に置いた、新たな収益の柱となる新規事業の開発に注力して参りました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、主力事業でありますソーシャルサービス事業においては、ソーシャルゲーム向けユーザーサポートサービスの売上が引き続き順調に伸長しております。また、運用保守のランニング売上についても既存顧客からの受託が増加し売上に貢献いたしました。受託開発事業においては、大型の受託開発案件の受注が継続しており、売上高は増加しております。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,252,109千円(前年同期比11.6%増)となりました。営業損益については、引き続き新規サービスの開発投資を積極的に実施しつつも、既存サービスの収益拡大と利益改善の効果もあり、17,875千円(前年同期47,347千円の損失)の利益となりました。経常損益は、関係会社株式の保有区分を変更し持分法の適用を除外したため、持分法投資損益の影響が無くなりましたが、助成金収入などにより21,865千円(前年同期14,063千円の損失)の利益となり、四半期純損益は、7,286千円(前年同期21,554千円の損失)の利益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(ソーシャルサービス事業)

《法人向けソーシャルメディア活性化サービス》

Facebookに代表されるソーシャルネットワークやTwitterに代表される(マイクロ)ブログなど、企業によるソーシャルメディア活用のための企画提案・アプリケーション開発や、ガイアックスソーシャルメディアラボによるソーシャルメディアの啓蒙活動などを実施

《法人向けソーシャルメディア運用・監視サービス》

同ソーシャルメディアを企業が運営する上で、24時間体制での運営サポートや投稿監視サービスなどを、日本語及び英語を中心とした多言語にて提供

《教育機関向けソーシャルリテラシーサービス》

学校裏サイトの監視やネットいじめ対策コンサルティングである「スクールガーディアン」や、若い世代の前向きなソーシャルメディア活用を推進するネットリテラシー講座などを提供

《ソーシャルゲーム向けユーザーサポートサービス》

ソーシャルゲームに対するユーザー様からの問い合わせなどにつき、対応代行を24時間・多言語体制で行う「ソーシャルアプリサポート」を提供

《法人向けソーシャルネットワークサービス》

企業の社内コミュニケーションを有機的に活性化していく「エアリー」、日常業務の生産性を高める「Co-Work(コワーク)」などのクラウド型社内SNSを提供

《デジタルコンテンツサービス》

モバイル/スマホ向けコンテンツ配信「モバリスト」などを提供

当第2四半期連結累計期間におきましては、《ソーシャルゲーム向けユーザーサポートサービス》の顧客数が増加したことにより、売上高も引き続き増加しております。営業損益については、外注コスト等を削減し、利益率の改善を図ってまいりました。

この結果、売上高については、1,272,749千円(前年同期比4.1%増)となり、営業損益については149,353千円(前年同期比296.7%増)の利益となりました。

(受託開発事業)

受託開発事業におきましては、子会社の株式会社電縁が主力事業としております。当第2四半期連結累計期間の業績は、前連結会計年度末から引き続き大型の受託開発案件の受注が継続しており、売上高については、前第2四半期連結累計期間に比べ大幅に増加しております。営業損益については、引き続き利益率を確保しつつ工数管理等のコストマネジメントを強化しており、営業利益が改善されております。その結果、売上高については987,033千円(前年同期比21.6%増)となり、営業損益は、45,913千円(前年同期は8,188千円の損失)の利益となりました。

(インキュベーション事業)

インキュベーション事業におきましては当期首より新たに事業を開始し、当第2四半期連結累計期間においては株式等の売却による売上はありませんでしたが、社内のスタートアップ制度における新規事業が立ち上がってきておりその結果、売上高は532千円となりました。引き続き新規事業の投資が先行しているため、営業損益は84,339千円(前期はなし)の損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて4.7%増加し、2,529,536千円となりました。これは、主に営業投資有価証券が199,377千円増加したこと、現金及び預金が108,228千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて37.4%減少し、232,703千円となりました。これは、主に投資有価証券が156,229千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて0.9%減少し、2,762,240千円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて7.7%減少し、793,402千円となりました。これは、主に1年内返済予定の長期借入金が37,782千円、1年内償還予定の社債が24,000千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて6.4%増加し、354,491千円となりました。これは、主に長期借入金が53,704千円増加したこと、及び社債が33,500千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて3.8%減少し、1,147,894千円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1.3%増加し、1,614,345千円となりました。これは利益剰余金が四半期純利益により7,286千円、新株予約権が10,689千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

ソーシャルサービス事業セグメントは、引き続きSNSの普及が拡大しており、企業におけるソーシャルメディアを活用した様々なサービスの増加が見込まれております。このような状況のもと、既存サービスに加え新サービスの提供も同時に注力することにより前連結会計年度に対して5%程度の売上高増加を見込んでおります。

受託開発事業セグメントは、携帯キャリア向け及び公共関係の大型案件の受注は確定しているものの大幅な増加とはならず、前連結会計年度と同水準の売上高を見込んでおります。

一方、利益水準については、新規事業の構成比率が高まる見込みである中、連結子会社の持分比率の変動や社数の増減の影響に加え、各事業の損益がマーケット環境や市況動向次第で大きく変動することから、連結グループとしての業績の予測が極めて困難であり業績予想の開示は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

(連結の範囲の重要な変更)

当第2四半期連結会計期間において、連結の範囲の重要な変更はありません。

なお、当第2四半期連結会計期間において、株式会社GaiaX Interactive Solutionsはアディッシュプラス株式会社に、株式会社シニアモードは株式会社XStartupに社名を変更しております。

(持分法適用の範囲の変更)

前連結会計年度において持分法適用関連会社としておりましたAppBank株式会社については、第1四半期連結会計期間よりインキュベーション事業の開始に伴い、保有区分を当事業目的の有価証券に変更したため、持分法適用の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(営業投資有価証券について)

当社は第1四半期連結会計期間より、GaiaX Global Marketing & Ventures Pte.Ltd.において、インキュベーション事業を開始しております。これに伴い、従来、四半期連結貸借対照表上、固定資産の「投資有価証券」に計上していた投資育成目的の有価証券を流動資産の「営業投資有価証券」に計上しております。

また、当該有価証券に係る損益を、四半期連結損益計算書上「売上高」及び「売上原価」に計上する方法を採用しております。これに伴い、当連結会計年度の期首において、前連結会計年度末の「投資有価証券」のうち153,696千円を「営業投資有価証券」に組替えております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,749,330	1,641,102
受取手形及び売掛金	518,359	462,676
仕掛品	109,749	123,244
有価証券	10,021	71,261
営業投資有価証券	—	199,377
その他	34,325	38,220
貸倒引当金	△6,656	△6,346
流動資産合計	2,415,129	2,529,536
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	55,428	51,212
工具、器具及び備品(純額)	32,213	30,112
リース資産(純額)	4,859	4,251
有形固定資産合計	92,500	85,576
無形固定資産		
ソフトウェア	2,689	2,102
のれん	17,835	12,897
その他	145	145
無形固定資産合計	20,670	15,145
投資その他の資産		
投資有価証券	156,609	379
長期預金	20,570	29,750
敷金及び保証金	75,472	90,449
長期貸付金	5,735	10,239
その他	18,777	20,016
貸倒引当金	△18,875	△18,853
投資その他の資産合計	258,289	131,981
固定資産合計	371,461	232,703
資産合計	2,786,590	2,762,240

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	133,108	116,593
短期借入金	72,500	120,002
1年内返済予定の長期借入金	198,852	161,070
1年内償還予定の社債	31,000	7,000
未払費用	166,019	147,894
預り金	35,080	20,253
未払法人税等	11,749	14,044
賞与引当金	—	25,364
その他	211,387	181,181
流動負債合計	859,698	793,402
固定負債		
社債	38,000	4,500
長期借入金	254,930	308,634
その他	40,378	41,357
固定負債合計	333,308	354,491
負債合計	1,193,006	1,147,894
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,673,979	1,674,504
利益剰余金	△57,595	△50,309
自己株式	△138,825	△137,635
株主資本合計	1,577,557	1,586,559
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,050	7,910
為替換算調整勘定	2,768	2,968
その他の包括利益累計額合計	9,818	10,878
新株予約権	6,187	16,877
少数株主持分	20	29
純資産合計	1,593,584	1,614,345
負債純資産合計	2,786,590	2,762,240

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)
売上高	2,017,344	2,252,109
売上原価	1,373,724	1,469,010
売上総利益	643,619	783,099
販売費及び一般管理費合計	690,967	765,223
営業利益又は営業損失(△)	△47,347	17,875
営業外収益		
受取利息	537	302
助成金収入	8,512	6,757
為替差益	—	889
持分法による投資利益	21,539	—
保険解約返戻金	6,634	—
その他	1,614	1,534
営業外収益合計	38,837	9,483
営業外費用		
支払利息	3,678	3,404
為替差損	1,109	—
貸倒引当金繰入額	51	0
支払保証料	312	1,124
その他	401	964
営業外費用合計	5,553	5,494
経常利益又は経常損失(△)	△14,063	21,865
特別利益		
新株予約権戻入益	290	169
投資有価証券売却益	—	2,062
特別利益合計	290	2,231
特別損失		
自己新株予約権消却損	—	1,700
特別損失合計	—	1,700
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△13,773	22,397
法人税、住民税及び事業税	7,791	15,101
法人税等合計	7,791	15,101
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△21,565	7,295
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△10	9
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△21,554	7,286

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△21,565	7,295
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	58	860
為替換算調整勘定	△318	199
その他の包括利益合計	△259	1,060
四半期包括利益	△21,824	8,355
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△21,813	8,346
少数株主に係る四半期包括利益	△11	9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(シンガポール子会社による孫会社への増資)

当社は、平成27年7月28日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるGaiaX Global Marketing & Ventures Pte. Ltd. が、当社の孫会社であるXStartup Singapore Pte. Ltd. に対して増資を行うことを決議いたしました。

なお、本増資により、当該孫会社の資本金が当社の資本金の100分の10以上に相当し、当該孫会社は当社の特定子会社に該当することになります。

1. 増資の目的

XStartup Singapore Pte. Ltd. は、平成27年7月に新規事業の海外進出拠点として設立しましたが、今後の事業拡大と資本の充実を目的として、新たに当該孫会社に対し追加出資を行うことといたしました。

2. 増資する孫会社の内容

(1) 商号	XStartup Singapore Pte. Ltd.
(2) 所在地	シンガポール共和国
(3) 代表者	野澤 直人
(4) 事業内容	新規事業の市場調査及び海外進出拠点
(5) 資本金	100円
(6) 設立	平成27年7月21日
(7) 出資比率	GaiaX Global Marketing & Ventures Pte. Ltd. 100%

3. 増資の内容

(1) 増資金額	499,999,900円
(2) 増資後の資本金	500,000,000円
(3) 増資引受人	GaiaX Global Marketing & Ventures Pte. Ltd.
(4) 払込期日	平成27年7月31日